



津市長 前葉泰幸

クラボウ
三重工場長 青山恭弘さん

10月23日、クラボウ三重工場の工場長青山恭弘さんを前葉泰幸市長が訪ね、津市での工場の歴史や新たな取り組みなどについて、お話を伺いました。

クラボウと津市の歴史

市長 クラボウ三重工場では、今年4月に新しい工場が完成し、新たな形で津市に帰ってきていただきました。クラボウと津市のおつきあいは、大変長いですね。

青山 そうですね。昭和初期に当時の堀川市長さんから大変ご熱心な誘致のお話をいただき、昭和10年から70年以上、津市で事業を展開

してきました。

市長 津市では明治時代から紡績が盛んで、当時市の工業生産額の8割は紡績などの繊維産業でした。その後、津市に限らず全国的に繊維から重化学工業へシフトし、クラボウにとっても、その頃が転換期だったと思うのですが。



昭和初期に建設されたクラボウ三重工場の写真を見ながら、その歴史を聞く前葉市長

青山 おっしゃるとおりですね。飛躍的に事業が拡大した大正期や、軍需工場化された昭和初期を経て、戦後、繊維産業は大きく様変わりをしたと思います。

市長 そういう中で津の工場も羊毛工場としての役割は、一応終えられたということになりますか。

青山 そうですね、平成21年9月に残念ながら一度閉鎖しましたが、今回新しい事業をスタートするため、同じ場所に戻ることになりました。当然、今後の事業展開を踏まえて、この津の地を選んだのですが、やはり70年余りにわたりお世話になった津市への思い入れというののもかなり強かったと思います。